

不滅の福澤プロジェクト：旧居で聞く福澤先生の物語～一身独立し一國独立す～

## 『福澤諭吉～物語と史跡をたずねて～』 岩井護

朗読：New 杜の声



- 1、 安政三年冬（諭吉 23 歳） 朗読 高野 好美
- 2、 帰郷 （諭吉 30 歳） 朗読 池田 満智子
- 3、 慶應義塾 （諭吉 35 歳） 朗読 山岡 勝子
- 4、 福澤屋諭吉（諭吉 41 歳） 朗読 宮本 初恵
- 5、 独立自主 （諭吉 48 歳） 朗読 及川 花子



※福澤諭吉の年齢は原作に習い、数え年で表記をしています。

本日はお越しいただきありがとうございます。

諭吉がこの家を出たのは19歳（数えで21歳）の時。

兄、三之助の勧めで蘭学（オランダ語で西洋学を研究すること）を学ぶため、長崎へ向かいました。岩井護さんの著作中では、諫早での蘭学修行の様子から物語が始まります。

そして、本日の朗読会では長崎を出て江戸を目指した諭吉が大坂に留まり緒方洪庵の適塾に入門したシーンより物語が展開されます。

福澤先生は生涯で7回、中津に帰郷をしました。

物語中では母や姉と親しく語らう様子が出てきます。

福澤先生も過ごしたこの旧居ではどのような生活が営まれていたのでしょうか。

今夜の朗読を聞きながらご想像頂ければ幸いです。

令和4年7月30日 福澤諭吉旧居・福澤記念館

— 福沢諭吉の中津帰郷 —

安政三年冬（諭吉 23 歳）※朗読あり

① 安政 3（1856）年 5 月下旬

兄三之助のリウマチは回復せず。

任期満了を機に諭吉病後の保養を兼ね、兄とともに中津に帰る。

② 安政 3（1856）年 9 月 10 日

兄死去の報に接し中津へ帰る。その後中村術平家から福澤家に復籍し、  
家督を相続、50 日の喪に服す。

江戸へ（諭吉 25 歳）

③ 安政 5（1858）年 10 月

藩命により江戸に出府することになり、中津に帰って母と面会した後、船で大坂に戻り、  
適塾の同窓生・岡本周吉（のちの古川節蔵）を伴い、中旬、江戸に着く。

帰郷（諭吉 30 歳）※朗読あり

④ 元治元年（1864）年 3 月 23 日

中津へ向かって出発。身辺の危険を考え変名で旅行。中津で 6 年ぶりに母と会う。滞在  
2 ヶ月。小幡篤次郎ら 6 人の青年を福澤塾に誘い、共に江戸へ向かう。6 月 26 日着。

雁渡る（諭吉 35 歳）

⑤ 明治 3（1870）年 閏 10 月 28 日

中津帰省のためアメリカ船で東京を出立。関西を經由し、11 月 中津に着き母に上京を勧め  
同意を得る。11 月 27 日、『学問のすゝめ』の思想の根幹となる「中津留別の書」を旧  
居で認める。12 月 3 日、増田宋太郎が垣根の外に隠れて福澤暗殺を狙うが果たせず。  
12 月 3 日、母順・姪の一らを伴い中津を出発して東京へ向かい、宇島の船宿に泊まる。

諭吉 37 歳

⑥ 明治 5（1872）年 5 月

中津に行き中津市学校を視察する。7 月 6 日江戸へ出発。姉（服部鐘）夫妻も上京。

諭吉 61 歳

⑦ 明治 27（1894）年 2 月 27 日

展墓のため長男・一太郎、次男・捨次郎を伴い横浜より船で帰郷する。

滞在中 1 日耶馬溪に遊ぶ。競秀峰が売物に出ていると聞き、風致保存のため買収する。

3 月 12 日 中津を出立。

参考図書：『福澤諭吉事典』2010 年、慶應義塾